

平成 27 年 9 月 24 日

各 位

会社名 マックスバリュ西日本株式会社
代表者名 代表取締役社長 加栗 章男
(コード番号 8287 東証第 2 部)
問合せ先 取締役経営管理本部長 守岡 幸三
(電話：082-535-8428)
当社の親会社 イオン株式会社
代表者名 取締役兼代表執行役社長 岡田 元也
(コード番号 8267 東証第 1 部)

業績予想の修正及び特別損失計上に関するお知らせ

当社は、平成 27 年 4 月 9 日に公表した平成 28 年 2 月期第 2 四半期累計期間（平成 27 年 3 月 1 日～平成 27 年 8 月 31 日）の業績予想を修正するとともに、下記の通り特別損失を計上いたしますのでお知らせいたします。

記

1. 平成 28 年 2 月期第 2 四半期（累計）連結業績予想の修正

(百万円未満切捨)

	営業収益	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	136,250	1,700	1,720	490	18.73
今回修正予想 (B)	137,943	2,303	2,435	658	25.17
増減額 (B-A)	1,693	603	715	168	6.44
増減率 (%)	1.2	35.5	41.6	34.4	34.4
(ご参考) 前期実績 (平成 27 年 2 月期第 2 四半期)	134,942	833	997	△29	△1.12

2. 修正の理由

売上高につきましては、前年度に活性化を実施した店舗を中心に全体の底上げが図られ、既存店売上が前年を上回る状態で推移いたしました。また、新たな取組みである兵庫水産センターは、配送店舗を 20 店舗に拡大いたしました。これによって、小型店舗における生鮮魚及び刺身は、品揃えの充実、出来栄えの安定化が実現し、店舗全体の集客力アップに繋がっております。

売上荒率率につきましては、原価低減による値入率の向上、在庫の削減が進み、前年度よりも大幅に改善いたしました。

経費につきましては、新規店舗に係る投資のローコスト化、LED の導入による電気代の削減等によって、計画内にコントロールいたしました。

以上の理由等により、営業収益、営業利益、経常利益、四半期純利益のいずれについても前回発表予想を上回る見込みであります。

3. 特別損失の計上及びその内容

減損損失	373百万円
<u>固定資産除売却損等</u>	<u>195百万円</u>
特別損失合計	569百万円

当社は、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、保有する固定資産について将来の回収可能性を検討した結果、店舗等に係る減損損失として3億73百万円を計上いたします。

その他、固定資産除売却損等1億95百万円を含めた特別損失の合計は、5億69百万円となる見込みです。

4. 通期の業績予想

下期は、既存店の活性化（10店舗予定）、店舗の生産性を高めることを目的としたシステム投資を計画しております。また、商品面では地元市場を活用した仕入、お客さまのニーズが高まっているお惣菜の開発に注力し、お客さまから支持される売場づくりに取り組んで参ります。

しかしながら、当社を取り巻く競争環境は依然として厳しく、今後の消費者動向など経営環境についても不透明であることから、平成28年2月期の通期業績予想につきましては、前回発表（平成27年4月9日）から変更はありません。

※上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって業績予想数値と異なる場合があります。

以上